

情 報 公 開 文 書

研究の名称	エコチル 8 歳学童期検査の追加調査
整理番号	R2019015
研究機関の名称	国立大学法人富山大学
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 稲寺秀邦
研究の概要	<p>【研究対象者】 エコチル調査の「8 歳学童期検査」の来場者。検査に参加する子供および母親を対象としています。エコチル調査の研究計画に関しては、富山大学倫理委員会において承認を受けている（臨認_22-109）。2022 年にリクルートが終了し、富山大学では、1,867 組の母児が登録されました。</p> <p>【研究の目的・意義】 「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」は、妊娠期から出産直後にかけてお母さま自身に関する様々な情報を質問紙法等で情報収集してまいりました。しかし、出産 6 ヶ月以降は、質問の主眼点がお子さまに移るため、お母さまに関しては必ずしも十分な情報が得られていません。また、お子さまについても、測定されてこなかった項目があります。そこで本研究では、8 歳に達する時にエコチル調査で実施する「学童期検査」に来場するお子さまとお母さまを対象として、心身の健康、および、これらと関連の深い項目についての追加調査を実施します。研究の具体的な目的は以下の通りです。</p> <p>目的 1：出産後 8 年時点におけるお母さまの心身健康状態を明らかにするとともに、エコチル調査で既に取得済みのデータと紐付けることで、これらに関連する過去および現在の要因を調べます。</p> <p>目的 2：産後うつと対児愛着それぞれの質問項目について探索的・確認的因子分析を行うことで、因子的妥当性を検証します。</p> <p>目的 3：閉経前の女性の骨密度に影響を及ぼすと考えられる生活習慣また健康への意識（ヘルスリテラシー）などを検討し、骨密度増加と維持に強い関連がある要因を明らかにする。</p> <p>目的 4：児童の骨折と骨密度との関連、骨密度に影響を与える要因を検証する。</p> <p>目的 5：児童における光線過敏症の有病率、発症年齢および発症要因を明らかにする。</p> <p>【研究の方法】 本研究では、エコチル調査の学童期検査の待ち時間を利用し、15 分程度の質問紙調査と 5 分程度の非侵襲骨密度測定および体組成測定を行います。2022 年にリクルートと情報収集は終了し、解析および成果発表の段階に入っています。</p> <p>【研究期間】 2019 年 06 月 10 日～2028 年 3 月 31 日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 本研究の成果は、疫学関連、社会医学関連、心理学関連の雑誌への投稿および学会発表を予定しています。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有)	身体運動量（国際標準化身体活動質問票：IPAQ）、ソーシャルキャピタル（9 項目ソーシャルキャピタル質問票：SC）、健康関連 QOL（健康関連 QOL 尺度：SF-8）、産後うつ症状（エジンバラ産後うつ尺度：EPDS）、心理的ストレス

無)	(K6 質問票 : K6)、対児愛着 (対児愛着質問票 : MIBS-J)、骨密度 (日立・AOS-100)、体格体組成 (TANITA・MC780A)、ヘルスリテラシー (慢性疾患患者向け機能的ヘルスリテラシー・一般市民向け伝達の・批判的ヘルスリテラシー質問票)、抑うつ状態 (抑うつ状態自己評価尺度 : CES-D)、精神健康 (精神健康調査票 : GHQ-12)、光線過敏症 (6 項目質問紙) 妊娠の有無、授乳の有無、月経の状況、児の 9-12 歳質問票で収集する骨折。及び、エコチル調査で既に収集済みの情報。
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 稲寺秀邦
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者 (研究主機関における研究責任者氏名)	富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 稲寺秀邦
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	<p>研究対象者からの除外 (試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む) を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。</p> <p>電話 : 076-415-8842 FAX : 076-415-8843 E-mail : ecojimu @med.u-toyama.ac.jp 担当者所属 : 富山大学 学術研究部医学系・公衆衛生学講座 氏名 : 土田暁子</p>